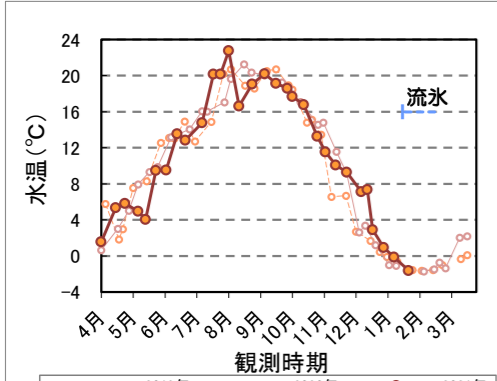


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2022年1月)

海洋環境データ

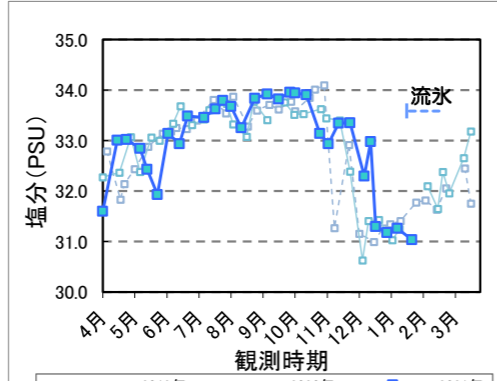
※観測：紋別市

◎水温 (0~9mまでの平均値)



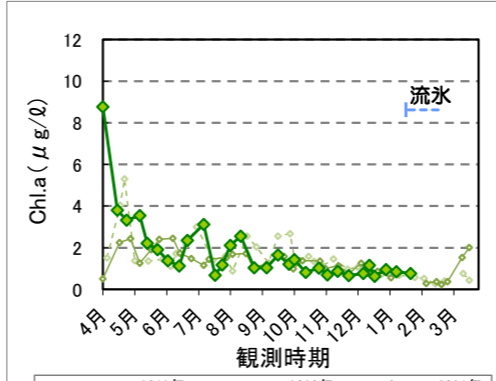
※2022年1月20日：流水初日、1月21日：流水接岸初日 発表

◎塩分 (0~9mまでの平均値)



※2022年1月20日：流水初日、1月21日：流水接岸初日 発表

◎Chl. a (0~9mまでの平均値)

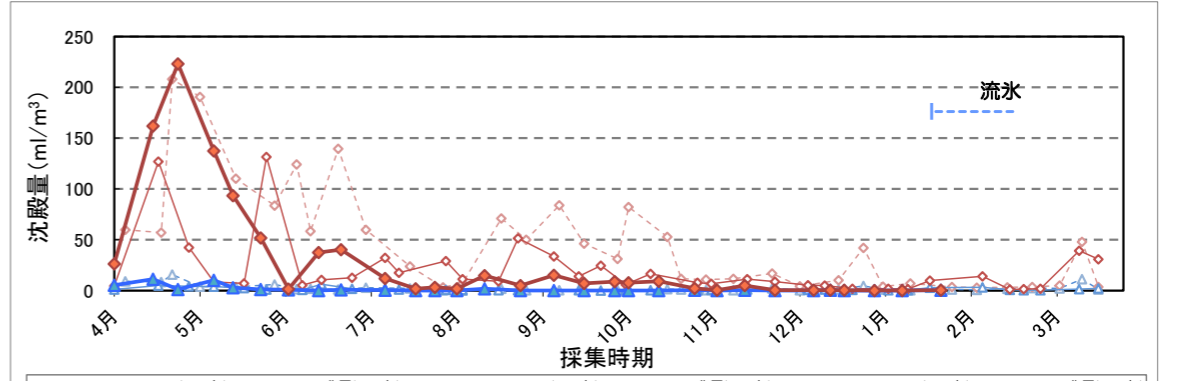


※2022年1月20日：流水初日、1月21日：流水接岸初日 発表

動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



※2022年1月20日：流水初日、1月21日：流水接岸初日 発表

概要

Table with 3 columns for dates 1月1日, 1月11日, and 1月25日. Rows include average temperature, salinity, Chl.a, sedimentation, and main species found. Species listed include Calanus glacialis, Pseudocalanus minutus, Acartia hudsonica, etc.

出現量の多かった種類



※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl.aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl.a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”は分析者の経験から、サンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである(+出現、++やや多い、+++多い、++++かなり多い、+++++極めて多い)。

※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(◆冷水性種、◆暖水性種、◆汽水性種)。

※今月のサンプルには腐植質(主に枯死・分解した植物由来の物質)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。

※沈殿量欄の“0.0”は、計測値を1立方メートル濾水量換算の上、小数点第2位で四捨五入した結果、“0.0 (ml/m³)”となったことを示す。

※参考文献：

List of references including: ①千原・村野 (1997) 日本産海洋プランクトン検索図説, ②山路 (1966) 日本海洋プランクトン図鑑, ③岩国市立ミクロ生物館 監修 (2011) 日本の海洋プランクトン図鑑, ④Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods, ⑤Pinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of Thysanoessa inermis and Euphausia pacifica, ⑥林 (2006) 水産無脊椎動物学入門, ⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima (2005) A new species of the calanoid copepod genus Centropages, ⑧西・加藤 (2002) 日本産カムリゴカイ科多毛類の分類について, ⑨今島 (1996) 環形動物 多毛類, ⑩日本プランクトン学会 監修 (2011) すかん プランクトン, ⑪水島・鳥澤 監修 (2003) 漁業生物図鑑 新北のさかなたち, ⑫古賀 (1960) Centropages abdominalis SATOのノープリウス幼生, ⑬伊藤・水島・久保田 (2005) 駿河湾三保沖におけるカラヌス目カイアシ類の季節的消長, ⑭大越・野村 (1990) 穿孔性多毛類Polydora属による北海道地方, ⑮峯水・久保田・平野・リンズィー (2015) 日本クラゲ大図鑑, ⑯奥谷 (2017) 日本近海産貝類図鑑, ⑰大塚・上田・岩淵・伊東・徐・坂口・平野・木村・上野 (2007) 移入種か、在来種か? : 清水港から記載された浮遊性カイアシ類の1種の導入の可能性を検証する.